

氏名	間 賀 俊 朗
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3182号
学位授与の日付	平成10年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Assessment of UDP-Galactosyltransferase activity in gastric mucosa of patients with chronic liver disease using an enzyme-linked peanut agglutinin binding assay (レクチンの特異的糖鎖結合を利用したヒト胃粘膜UDP-Galactosyltransferase 活性測定による慢性肝疾患患者における胃粘膜防御因子の検討)
論文審査委員	教授 原田 実根 教授 原田 英雄 教授 楨野 博史

学位論文内容の要旨

胃ムチンは、酸やペプシンなどの刺激から胃粘膜を防御する上で重要な役割を果たしている。糖転移酵素の UDP-Galactosyltransferase はムチン生合成における重要な酵素である。我々は慢性肝疾患患者における胃ムチン生合成について研究するために、内視鏡で採取したヒト胃粘膜生検組織のビーナッツレクチンを用いた UDP-Galactosyltransferase 活性の新しい測定法を開発した。本方法で測定した UDP-Galactosyltransferase 活性はラジオアイソトープを用いて測定した以前の方法とよく相関した。肝硬変患者における本酵素活性は正常者や慢性肝炎患者に比して有意に低下しており、また表層の上皮細胞中の粘液量とよく相関していた。この結果は肝硬変患者における胃ムチン産生障害がおこっていることを示唆する。

論文審査結果の要旨

本研究は、胃粘膜ムチンの生合成に重要な糖転移酵素 UDP-Galactosyl-transferase の活性を評価するためにビーナッツレクチンを利用する新しい測定法を開発し、本酵素活性が肝硬変患者において正常者や慢性肝炎患者に比して有意に低下し、さらに胃粘膜上皮細胞中の粘液量と相関することを見出した。この結果は、肝硬変患者における胃ムチン産生障害を明らかにしたものとして価値ある業績と考えられ、よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。